

topic

## 医療フォーラム「重粒子線がん治療を語る」開催

佐賀県と熊本県で医療フォーラム「重粒子線がん治療を語る」を開催いたしました。フォーラムではサガハイマツト治療開始から5年が経過し、これまでの治療状況や現状についての講演を行い、2018年11月の佐賀フォーラムでは約100名の、2019年2月の熊本フォーラムでは約280名の方に参加いただきました。

佐賀フォーラム 2018年11月26日(月)  
佐賀市のグランデはがくれ



熊本フォーラム 2019年2月18日(月)  
熊本市のパレアホール



### スタッフ紹介



看護師  
山内 由美



看護師  
中川 美保



看護師  
野中 葉子



診療放射線技師  
大坪 圭介

### ●寄附をお願いします●

佐賀国際重粒子線がん治療財団では、引き続き皆さんからの寄附を募集しています。県内、ひいては九州のがん医療の充実につながるサガハイマツトへのご支援をよろしくお願いします。

なお、当財団へご寄附をいただいた方には、特定公益増進法人に対する寄附として、税制上の優遇措置があります。詳しくは、当財団までお問い合わせください。

### サガハイマツト通信 Vol.23

(平成31年2月号)

【お問い合わせ】

発行 公益財団法人 佐賀国際重粒子線がん治療財団 (担当)本村

所在地 〒841-0071 佐賀県鳥栖市原古賀町 3049 番地

TEL 0942(81)1897 FAX 0942(81)1905

HP <http://www.saga-himat.jp/>

# サガハイマツト通信

Vol.23

(平成31年2月号)

## 佐賀・熊本で医療フォーラム開催



医療フォーラムで講演をする野元諭副センター長=2月18日、熊本市のパレアホール

- CONTENTS ●野元 諭 副センター長 インタビュー  
●データで見るサガハイマツト  
●医療フォーラム「重粒子線がん治療を語る」開催  
●【スタッフ紹介】看護師・診療放射線技師のみなさん



サガハイマツトは、九州国際重粒子線がん治療センターの愛称です

### サガハイマツトの受診に関する相談窓口

電話 0942-50-8812  
(受付時間:平日の9時~17時)

メール [saga-himat@saga-himat.jp](mailto:saga-himat@saga-himat.jp)



野元 諭  
副センター長  
インタビュー



【略歴】  
のもと・さとし/長崎県出身、1990年産業医  
科大卒。医学博士、放射線治療専門医。高精度  
放射線治療を専門とし、がん治療に携わって  
きた。前任は九州大学大学院医学研究院の放  
射線医療情報・ネットワーク講座准教授。  
2019年1月1日、九州国際重粒子線がん治  
療センター副センター長に就任。

九州国際重粒子線がん治療センター(愛称:サガハイマツト)

# 全スタッフの力を結集し チーム医療を提供

九州国際重粒子線がん治療センター(サガハイマツト)は塩山善之センター長の異動に伴い、中川原章理事長がセンター長を兼務するとともに、1月1日付で副センター長に野元諭氏(前九州大学大学院医学研究院放射線医療情報・ネットワーク講座准教授)が就任しました。開設前からワーキンググループのメンバーとしてサガハイマツトに関わっている野元副センター長に、サガハイマツトの印象や今後の抱負などを聞きました。

## ▼自己紹介をお願いします。

出身は長崎県で、1990年に産業医科大学を卒業しました。同大放射線科を振り出しに、多くの期間を九州大学大学院医学研究院、福岡大学病院など大学病院で勤務してきました。専門は放射線治療全般で、特に強度変調放射線治療や定位放射線治療などの高精度放射線治療に携わっています。また、大学病院以外では、九州労災病院(北九州市)、岡村一心堂病院(岡山市)での勤務経験があります。

サガハイマツトとの関わりとしては、開設前からワーキンググループに加わっており、2010年からは佐賀国際重粒子線がん治療財団の理事でもあります。勤務地としての佐賀は初めてとなりますが、2年半もの間、週に1回の終日研修にも来ていましたので、佐賀に愛着を持っています。

## ▼大学病院での「粒子線がん治療外来」経験も踏まえ、重粒子線がん治療の特長を教えてください。

サガハイマツトが大切にしている医療連携の一つに、九州大学、佐賀大学、久留米大学そして福岡大学の大学病院に設置されている粒子線がん治療の相談外来があります。私は九州大学と福岡大学の大学病院でこの外来を担当し、患者さんへの情報提供や適応判断などを行ってきました。多くの患者さんをサ

ガハイマツトに紹介しましたが、中には病状が改善したため、紹介しただけで治療をしていない私にまでお礼に来てくれる患者さんもいたのが印象的です。大学病院に相談外来があるメリットは、院内の主治医や患者さんがすぐに相談に行けることです。病状によってはスムーズな治療への移行が必要な場合があるので、この外来の意義は大きいと思います。一方で、重粒子線治療の適用とならない患者さんがいるのも事実です。そうした際には、丁寧に分かりやすく、納得して重粒子線治療以外の次の治療に進んでいけるよう診療することを第一に心掛けていました。

重粒子線治療の特長は、がん病巣に集中的に線量を照射できることです。そのため周囲の正常な臓器への影響も最小限に抑えることができます。生物学的効果(がんの殺傷効果)も高く、従来の放射線治療が効きにくいがんに対しても有効です。また、治療期間も短く、仕事をしながら治療ができることも特長と言えます。重粒子線治療の有効性が評価され、現在は、骨軟部腫瘍、前立腺がん、頭頸部腫瘍の三つが公的医療保険の適用となっています。

## ▼就任前にサガハイマツトで研修も経験されています。サガハイマツトについて、どのようなイメージをお持ちですか。

研修では外来を受け持つのではなく、治療計画を

立てるなどの作業を行っていました。エックス線では治療が難しいと思われるがんが、重粒子線によって治療していく症例をいくつも見てきて、改めてこの治療の素晴らしさを実感しています。公的医療保険の適用になっていない、肺がんや肝がん、膵がんなどの多くの患者さんのために、この重粒子線治療の実績を積み重ね、ゆくゆくは標準治療として重粒子線治療を受けることができるように努めていくことが私たちの使命だと感じています。

サガハイマツトは入院施設がなく、クリニックベースの放射線科単科というユニークな施設ですが、2013年5月の開設からこれまで順調に推移、稼働しています。これもひとえに、九州全域の大学病院をはじめとする医療機関にご協力いただいている広域ネットワークのおかげだと思っています。さらに、研修に来ていたころから、全スタッフが協力的で協調性もあり、チーム医療が十分に発揮できていることに感謝していました。そのため、これから受診され治療を受けられる患者さんは緊張せず、安心して来院してほしいと思います。

## 身近になった治療を より多くの人へ

## ▼副センター長としての抱負と、重粒子線がん治療の展望についてお聞かせください。

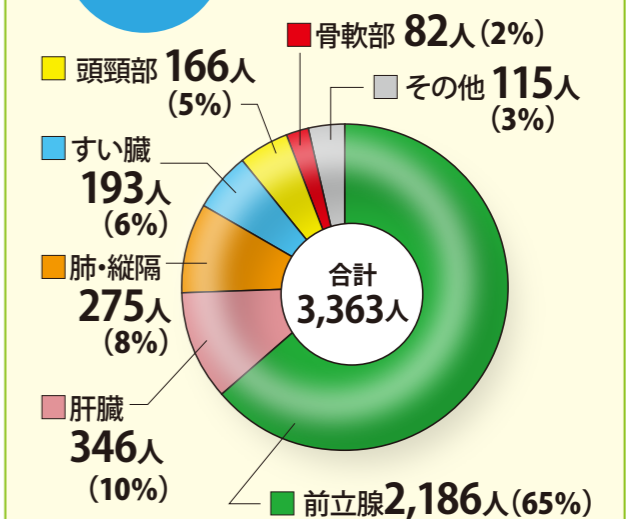
前任の塩山センター長がリーダーとなり、その尽力によってサガハイマツトは順調に立ち上がることができ、症例数も伸びてきています。私は、副センター長として今まで築き上げられた土台をしっかりと引き継いでいき、サガハイマツトをさらに飛躍、発展させたいと思っています。2016年4月と2018年4月の公的医療保険の適用拡大を受け、重

## データで見るサガハイマツト

(2019年1月末日現在)

### 部位別 患者数

※その他は、直腸(骨盤内再発)、  
食道、腎臓、婦人科など



粒子線治療はますます身近ながん治療になってきました。一方、身近になった分だけ患者さんが増加することも予想されます。治療を早く進行がんの患者さんはもちろんですが、待機時間短縮への対策もきちんと実施して、スムーズな治療が提供できるよう取り組み、これからも、より多くの患者さんによる治療を提供していきたいと思っています。

私は、医師や診療放射線技師、看護師などをはじめ、サガハイマツトに関与するすべてのスタッフの協調と協力を基盤とするチーム医療が最も重要だと考えています。スタッフの力を結集し、さらにがんを専門とする他科の医療機関と情報を共有して、治療が終わった患者さんのフォローにも気を配り、今後も患者さんや家族が安心して治療を受けられる施設を継続していくことができるよう努力を重ねていきたいと思っています。